

令和2年度 小坂町総合戦略事業評価シート NO3  
(十和田湖和井内エリア整備事業)

	担当課	建設課建設班
総合戦略における基本目標	基本目標Ⅲ「しごと」 地元産業間の連携による地域活性化プロジェクト 夢が実現する、安定した生活が送れるまちづくり	
事業名	十和田湖和井内エリア整備事業 効果促進事業(地方創生推進交付金)	実施年度 R2
重要業績評価指標(KPI) ※R2年度末目標	①道の駅十和田ひめます【仮称】の売上高 0万円 ②十和田湖地区における宿泊客数 78.6千人 ③十和田湖地区における観光入込客数 877.9千人	重要業績評価指標(KPI)に対する成果 ※R2年度末実績 ①道の駅十和田ひめます【仮称】の売上高 0万円 ②十和田湖地区における宿泊客数 40.5千人 ③十和田湖地区における観光入込客数 379.6千人

事業費(交付金対象額 交付金は対象経費の1/2) (単位:円)

	R2年度		R3年度
	予算(計画申請経費)	決算(対象経費) (交付金交付額)	予算(計画申請経費)
事業費	7,451,000	6,999,300 (3,499,650)	-

R2年度の取り組み

【効果促進事業】

- 建築工事の効果を促進するソフト事業を行った。
- 冬季間の観光客や施設利用者へ対応するための除雪作業に使用する除雪機械の導入。
- 除雪用タイヤローダー0.5m3型 1台
- ハンドガレ除雪機 900mm型 1台
- 施設内にて飲食物販提供を行うための飲食テーブル及び椅子の購入。
- 飲食用テーブル、椅子50席分

今後の取り組み

●自立に向けた取り組み

町内外の事業者(観光事業者、漁業協同組合ほか)や地元住民、地元金融機関、町等により施設の運営主体を設立し、自立した運営に取り組み、民間の経営者のノウハウを活かし順調に事業開始し、安定した経営を目指す。

●官民共同に向けた取り組み

官民連携による十和田湖畔の環境整備や誘客促進協議会の活動を強化する一方で、施設への誘客にあたっては、「康楽館」、「小坂鉱山事務所」、「小坂鉄道レールパーク」などをあわせた情報発信や宿泊と体験のセットメニュー、周遊チケットの販売等により相乗効果を発揮するよう取り組みを強化する。

また、小坂町が参加している地域連携DMO「(一社)秋田犬ツーリズム」による地域観光資源のブランド化や情報発信により得られた誘客を活用し、当施設を観光拠点として、周辺観光情報を集約し周遊ルートをつなぎ、観光人口の拡大を図る。

●政策間連携や地域間連携の取り組み

地域資源を活用した「グリーンツーリズム」政策と連携し、地元産食材や新開発ワインなどの優先的な販売を行う。

上十和田湖広域定住自立圏及び大館圏域定住自立圏の協定を最大限に生かし、圏内の観光情報の発信やイベントの開催などにより相乗効果を発揮させる。また、秋田県が行う国道改良事業や環境省が行う緑地公園整備と連携し、十和田湖観光周遊ルートの核となる施設整備を行う。

◆担当部署自己分析

妥当性評価	11	有効性評価	14	効率性評価	8	総合評価	達成度
町が関与すべき事業か	4	事業は効果的か	5	他に効率的な手法はないか	3	33 / 45	B 相当程度効果的であった。
町民のニーズは高いか	3	成果が期待できるか	4	コスト削減の余地はないか	3		
目的・対象は妥当か	4	政策目標の実現に貢献しているか	5	受益者負担は適当か	2		

※評価基準: 1-非効率、不適切 2-検討・改善余地あり 3-どちらでもない 4-効果的、適切である 5-大変効果的、最適である  
※担当部署での評価: A-非常に効果的であった B-相当程度効果的であった C-効果的であった D-効果的では無かった E-その他

◆小坂町地域創生本部による客観的分析

妥当性評価	11	有効性評価	12	効率性評価	9	総合評価	評価
町が関与すべき事業か	4	事業は効果的か	4	他に効率的な手法はないか	3	32 / 45	B 相当程度効果的であった。
町民のニーズは高いか	3	成果が期待できるか	4	コスト削減の余地はないか	3		
目的・対象は妥当か	4	政策目標の実現に貢献しているか	4	受益者負担は適当か	3		

※評価基準: 1-非効率、不適切 2-検討・改善余地あり 3-どちらでもない 4-効果的、適切である 5-大変効果的、最適である

※地域創生本部での評価: A-非常に効果的であった B-相当程度効果的であった C-効果的であった D-効果的では無かった E-その他

意見

・本体事業は終了し、今後はソフト事業を展開していかなければならない。本事業の効果促進に期待したい。